

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	78人	算数	78人	理科	78人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	77人	算数	77人	理科	77人
------	----	-----	----	-----	----	-----

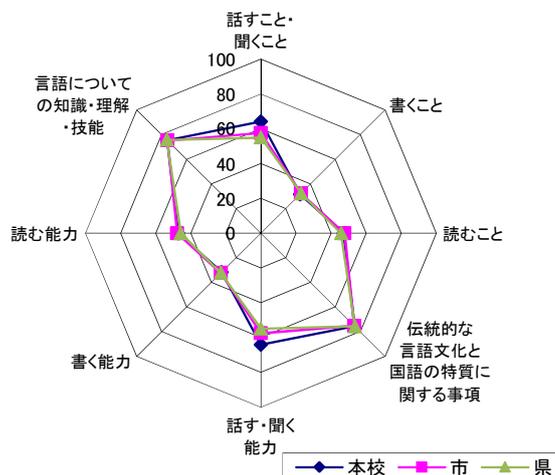
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.1	57.5	54.9
	書くこと	31.6	32.3	32.3
	読むこと	47.2	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	64.1	57.5	54.9
	書く能力	31.6	32.3	32.3
	読む能力	47.2	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	75.5	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

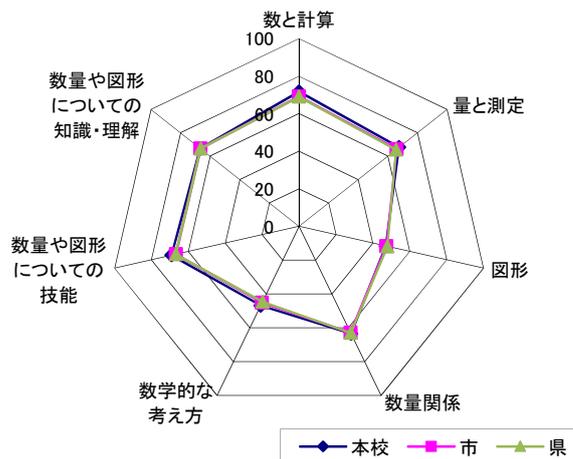
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率を9.2ポイント上回っている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」に関わる設問では、全て県の平均正答率を上回っている。特に、話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行することについての設問では、県の平均を16.4ポイントも上回っている。</p>	<p>・今後も話し合い活動を意識的に取り入れ、自分の考えを発表したり、司会役となって話し合いを進行したりまとめたりする体験を多くしていく。また、根拠を挙げながら筋道を立てて話す練習もできるようにしたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○文章構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書く設問では、県の平均正答率を、8.0ポイント上回っている。</p> <p>●メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く設問では、県の正答率を、9.0ポイント下回っている。</p> <p>●メモや友達の見解を基に、報告をレポートのまとめを書く設問では、無回答率が29.5%で、県の平均より5.0ポイント高い。</p>	<p>・日頃の授業でも、メモを基に文章を書いたり、まとめたりする活動を取り入れ、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。</p> <p>・記述式の問題が苦手な児童に対しては、個別に指導を行い、メモの中の言葉を抜かさずに記述できるようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県の平均正答率を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む設問では、県の正答率を5.5ポイント、叙述や会話文を基に、登場人物の性格を捉える設問では、7.0ポイント上回っている。</p> <p>●目的に応じて文章を要約する設問では、県の正答率を4.0ポイント下回っている。</p>	<p>・読書を好む児童が多いので、これからも朝の読書の時間や週末の「うち読」の時間を生かし、読書活動を推進していきたい。</p> <p>・文章の要約については、国語の時間に、要約する上でキーワードとなる言葉を押さえることを全体で行うなどして、要約の仕方に慣れるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県の正答率とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の読み書きについては、県の平均を上回っている設問が多い。10ポイント以上平均を上回る設問もある。</p> <p>●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方の設問では、県の正答率を11.9ポイントも下回っている。</p> <p>●会話文におけるかぎ(「」)の使い方の設問では、県の正答率を4.7ポイント下回っている。</p>	<p>・これからも、家庭学習や朝の学習の時間で、ドリル学習を行い基礎的な漢字の読み書きの能力を定着させていく。</p> <p>・ローマ字については、3年生で習った部分を復習し4年生の学習に生かせるようにしておく。家庭学習の課題などにし、ローマ字に触れる時間を多く取れるようにする。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.8	69.2	69.1
	量と測定	67.6	66.1	65.6
	図形	47.1	47.4	48.0
	数量関係	63.5	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	46.8	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	69.1	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	66.7	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

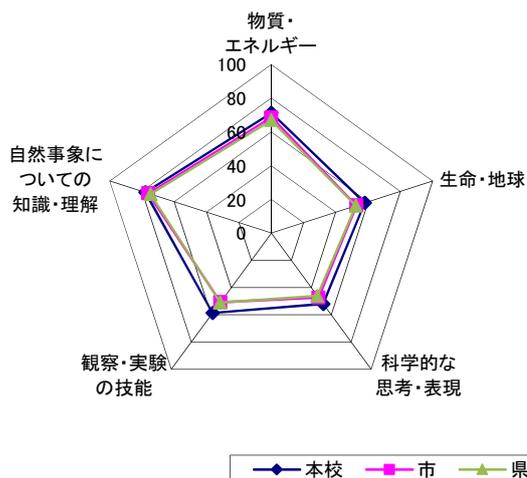
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は71.8%で他の領域と比べて高い。</p> <p>○「3位数+3位数=4位数」の繰り上がりのあるたし算の問題の平均正答率は97.4%で県の平均を9.8ポイント上回っており、よく身に付いている。</p> <p>●3/4の大きさを捉え正しく表された図を選ぶ問題の平均正答率は89.7%で県の平均正答率を5.3ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。</p> <p>・パワーアップタイムを通して繰り返し問題に取り組み、計算力を伸ばしていく。</p> <p>・分数の表す意味を理解できるように、図や数直線で示す活動を取り入れ、中位層から下位層の基礎的な学力を引き上げていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県の平均正答率を1.5ポイント上回っている。</p> <p>○教科書1さつのおよその重さを選ぶ問題については県の平均正答率を7.5ポイント上回っている。</p> <p>●はかりに示された重さを読み取る問題は県の平均正答率を4.6ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・実生活の中の重さの感覚や時刻の読み取りへの意識は高いと思われるので、今後も日常から算数的な活動を意識させて生活させる。</p> <p>・はかりの目盛りの読み取りについては、理科の時間なども活用して、なるべくたくさん体験できるようにさせていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均正答率を0.9ポイント下回っている。</p> <p>○円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答える問題については県の平均正答率を2.0ポイント上回っている。</p> <p>●正三角形の作図や円の直径の作図など県の平均より下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・図形の問題については、作図をする時間を十分に確保したり、応用的な問題に慣れさせたりし、理解を促していきたい。</p> <p>・友達と考えを伝え合う時間を確保し、応用的な問題をいろいろな視点で考えさせ、理解を深めさせたい。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ問題については県の平均正答率を4.9ポイント上回っている。</p> <p>●未知の数量を□として、数量関係に表した線分図を選ぶ問題については県の平均正答率3.4ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・文章問題を読み取り、数量関係を理解しながら線分図を書く活動を積極的に取り入れ、理解を深めさせるようにする。</p> <p>・記述式の問題については、下位層の児童に対して教師が例を示したり、キーワードを押さえさせたりすることで、抵抗感をなくしていきたい。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.3	68.6	66.9
	生命・地球	57.9	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	52.1	47.4	46.2
	観察・実験の技能	58.7	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	77.9	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は県の平均正答率を4.4ポイント上回っている。</p> <p>○回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方を問う設問の正答率は66.7%と県の平均正答率を35ポイントも大きく上回っている。</p> <p>○「電気の通り道」について、正答率が高く、実際に実験したことについて理解が定着している。</p> <p>●ゴムをのばす長さや車を走る距離の関係や実験結果から推測してゴムの伸びを問う設問の正答率が県より下回っている。</p>	<p>・今後も個人やグループごとの実験の時間をきちんと確保し、教師の演示だけで終わらせることがないように、理科実験の興味を深め、基礎問題の理解に結びつけていく。</p> <p>・学習の途中や終末に、自分でまとめる時間を設け、学習内容の定着を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は県の平均正答率を5.5ポイント上回っている。</p> <p>○昆虫の体のつくりや昆虫のすみかを問う設問の正答率は県の平均正答率を10ポイントも大きく上回っている。</p> <p>○植物の成長する順序を問う設問の正答率は県の平均正答率より14.2ポイント上回っている。</p> <p>○理由を説明したり、考察したことについて記述したりする設問の正答率が、県の平均正答率よりも上回っている。</p> <p>●虫眼鏡の適切な使い方を問う設問の正答率は県の平均正答率より4.4ポイント下回っている。</p>	<p>・普段の生活から関心の高い昆虫については、今後も進んで観察や世話をすることができるように、場と時間を確保できるようにし、実物や実体験から理解が深まるようにしていく。</p> <p>・実験から考察までの流れや問題解決の方法、共通して使う理科用語をきちんとノートに書かせ、活用する力をさらに高められるようにする。</p> <p>・理科の実験用具について正しい使い方を理解するだけでなく、正しく使えるように丁寧に指導し、実践から理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○● 学びの基礎力や学級力は、市や県の平均よりやや上回っているが、家庭学習力は62.0%で、市より1.6ポイント下回っている。設問別で見ると、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか。」では、30分以上の選択肢で答えている児童が88.2%で、市(81.2%)より7ポイント高く、9割近い児童は陽南学校園の学年の目安時間に達している。また、「家で自分で計画を立てて勉強している。」は73.1%で、市(68.0%)より5ポイント高い。これは、計算ドリルや家庭学習ががんばりカードの活用や懇談会等での啓発によって、児童や保護者の意識が高まった成果と考えられる。しかし、「授業の復習をしている。」は52.6%で市より6.4ポイント、「テストで間違えた問題を家で勉強している。」は53.8%で市より11.9ポイントも下回っている。さらに、「家で、決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」は62.8%で市より1ポイント上回っているが、自主学習に取り組んでいる児童は多いとは言えない。今後、学習のしかたを指導したり、個に応じた支援をしたりして、家庭学習の質が高まるように指導に努めていきたい。

○「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」は82.1%で、市より4.7ポイント低いが、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を行っている。」は73.1%で市より5.1ポイント、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」は83.3%で市より5.3ポイント高い。これは、昨年度の質問紙調査の結果を受け、学校全体で重点的に取り組んできた成果の表れである。さらに、授業の目標が児童に十分伝わるよう、導入の仕方などの工夫に努めていきたい。

○理科の学習が好きだと回答している児童は91.0%で、市よりも6.2ポイント高く、D層の児童も93.8%好きだと答えている。学力調査でも、市の平均を大きく上回っており、学習内容もよく身に付いていると言える。また、社会科が好きだと回答している児童は75.6%で市より5ポイント高い。これは、3年の総合的な学習で理科や社会科の学習と関連付けた題材を扱ったので、興味を持ったことにじっくり取り組むことができたためではないかと考える。「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定回答率(75.6%)も、市より8ポイント近く高い。今後も、年間計画をもとに、横断的な学習を計画し、実践に努めていきたい。

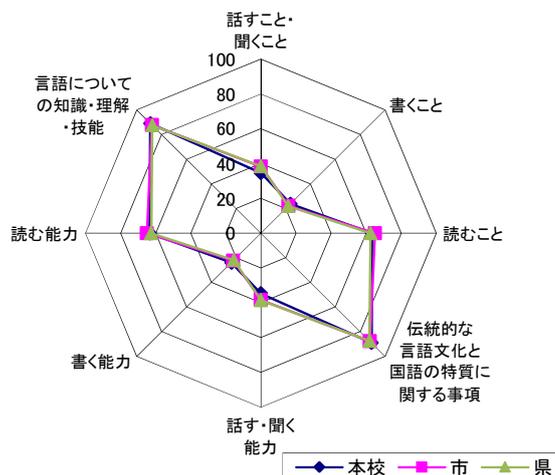
●「先生は学習のことについてほめてくれる。」が74.4%で市より10.5ポイント低い。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」は47.4%で市より5.4ポイント低く、「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている。」は69.2%で市より6.6ポイント低くなっている。児童のつぶやきに耳を傾け、一人一人の見取りをしっかりと行いながら授業の中で活躍できる場を与えたり、ノートや作品などを通して良さを認めるコメントを書いたり、言葉かけをしたりしていきたい。そして、そのことによって自分の考えや発言に自信をつけさせ、意欲的に学習に取り組める児童が増えるように努めていきたい。

●「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。」は60.3%で市より8ポイント低い。新聞をとっていない家庭も多く、児童が新聞を手にとって読む機会は少ない。教室に地域に関連する新聞記事を掲示するコーナーを設けたり、朝の会のスピーチの題材としてニュースを取り上げたりするなどして、関心を高められるよう工夫していきたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	34.6	38.3	38.5
	書くこと	23.8	22.3	21.9
	読むこと	63.4	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	89.1	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	34.6	38.3	38.5
	書く能力	23.8	22.3	21.9
	読む能力	63.4	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	89.1	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

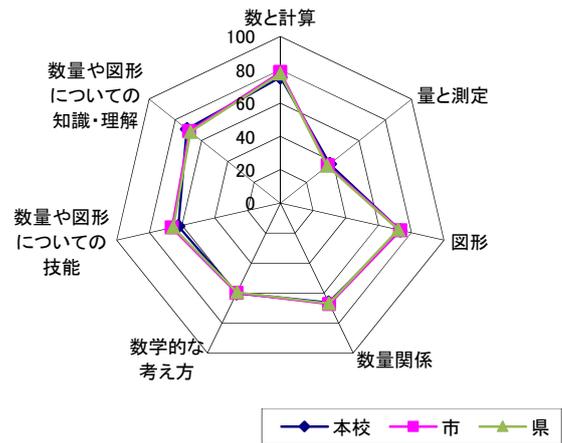
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。</p> <p>○考えの共通点や相違点を整理しながら聞く問題の正答率は、市の平均正答率0.1ポイント、県の平均正答率を1.6ポイント上回っている。</p> <p>●考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す問題の正答率は、市の平均正答率10.7ポイント、県の平均正答率を11.5ポイント下回っている。</p>	<p>・話し合い活動を授業に意識的に取り入れ、自分の考えを発表する機会を多くし、適切な発言の仕方について学ばせていく。自分が伝えたいことを、どのような観点に気を付けて発言すればよいか確認しながら行う。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率より1.5ポイント、県より約2ポイント上回っている。</p> <p>○文章構成を意識し内容を工夫してリーフレットを作る問題の正答率は、市の平均正答率を6.3ポイント、県の平均正答率を7.4ポイント上回っている。</p> <p>●メモを友達の見解を基にリーフレットのまとめを書く問題では、市の平均正答率を2.3ポイント、県の平均正答率を2.7ポイント下回っている。また、無回答率も36.4%だった。</p>	<p>・キーワードを与えて書かせる活動を取り入れる。友達の良い文章を提示し、まねて書かせたりする。</p> <p>・日記、行事作文、授業の振り返り感想を書かせるなどして、文章を書く機会を増やす。</p> <p>・日頃の授業でも、メモを基に文章を書いたり、まとめたりする活動を取り入れ、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は市の平均正答率を1.6ポイント下回り、県の平均正答率を0.9ポイント上回っている。</p> <p>○目的に応じて中心となる語を捉えて読む問題の正答率は、市の平均正答率を2.6ポイント、県の平均正答率を6.1ポイント上回っている。</p> <p>●文章を読んで考えまとめたことを発表し合う問題では、市の平均正答率を3ポイント、県の平均正答率を0.3ポイント下回っている。また、無回答率も22.1%だった。</p>	<p>・朝の読書の時間などに読書に親しんでいる効果が表れていると思われる。継続して読書活動を盛んにしていきたい。</p> <p>・自分の考えや友達のことをまとめ発表し合うという活動を、国語の時間だけでなく、他教科でも多く取り入れる。</p> <p>・読み取りの問題を時間内に解くためのスキルを身に付けるさせるために、時間を設定して、課題やプリント問題に取り組み、テストの環境に慣れさせる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は市と県共に平均正答率を約1.5ポイント、上回っている。</p> <p>○修飾と被修飾との関係を答える問題の正答率は、市の平均正答率を10ポイント、県の平均正答率を8.9ポイント上回っている。</p> <p>●一部の漢字の読み書きの問題で、市や県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・がんばりカードを活用し、漢字の練習問題に定期的に取り組みさせる。</p> <p>・単元の終末に、言葉や漢字の学習を取り入れ、言葉や漢字の使い方に触れさせる。</p> <p>・ワークテスト等で間違いが多かった漢字練習に取り組みさせる。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	78.6	77.7
	量と測定	37.7	36.3	35.7
	図形	73.4	73.3	72.1
	数量関係	66.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	60.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	62.3	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	71.2	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

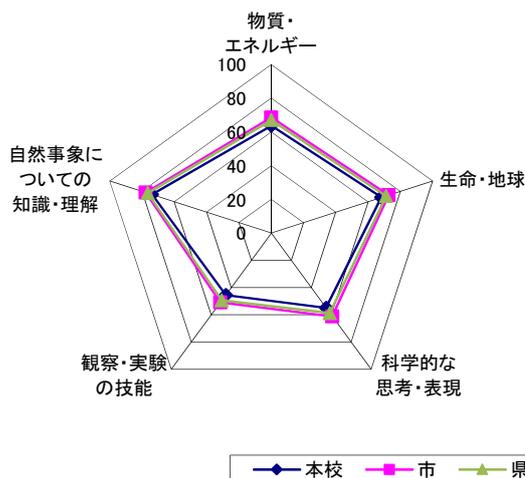
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は75.5%で他の領域と比べて高い。</p> <p>○小数と整数の中から一番大きい数を選ぶ問題の平均正答率は71.4%で宇都宮市の平均を5.6ポイント上回っており、よく身に付いている。</p> <p>●小数(小数第2位)×1位数の計算の問題の平均正答率は63.6%で宇都宮市の平均を12.8ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・パワーアップタイムを通して繰り返し問題に取り組みませ、計算力を伸ばしていく。 ・特にかけ算を中心に繰り返し問題に取り組みませ、中位層から下位層の基礎的な学力を引き上げていく。
量と測定	<p>平均正答率は37.7%でほかの領域と比べて低いが、宇都宮市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○図をもとに180度より大きい角度の求め方を説明する問題については宇都宮市の平均正答率を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する問題は宇都宮市の平均正答率を7.1ポイント下回っていて、無回答率も31.2%と高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・立式した理由を説明する活動の充実を心がけ、さらに理解を深めていく。
図形	<p>平均正答率は73.4%で、宇都宮市の平均正答率を0.1ポイント上回っている。</p> <p>○立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ問題では宇都宮市の平均正答率を1.5ポイント上回っている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する問題は宇都宮市の平均正答率を1.4ポイント下回っていて、無回答率も10.4%と県の平均無解答率を5.3ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・特に上位層の児童は記述式の問題にどんどん取り組みませ、力を伸ばしていく。 ・友達と伝え合う時間を多く確保し、問題に対して様々な視点で考えさせ、理解を深めさせたい。
数量関係	<p>平均正答率は66.4%で宇都宮市の平均正答率を1.0ポイント、県の正答率を0.5ポイント下回っている。</p> <p>○2つのグラフについて、正しくない説明を選ぶ問題では、宇都宮市の平均正答率を3.4ポイント上回っている。</p> <p>●折れ線グラフから下がり方の一番大きい部分を答える問題では、宇都宮市の平均正答率を11.3ポイントも下回っており、グラフの読み取り能力が低いと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・記述式の問題については、下位層の児童に対して教師が模範解答を示すことで、キーワードを押さえて写させるようにし、理解を促していく。 ・ICT機器を積極的に使いグラフを指導することで、児童がより理解できるようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	68.6	67.0
	生命・地球	68.2	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	55.0	61.2	58.8
	観察・実験の技能	45.5	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	73.9	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均正答率を4.9ポイント下回っている。</p> <p>○冷やしたコップの周りについて水できの正体を問う設問の正答率は79.2%と市の平均正答率を2.7ポイント上回っている。</p> <p>○冬のころのサクラのようすを問う設問の正答率は87.0%と市の平均正答率を10.4ポイントも上回っている。</p> <p>●秋のころのオオカマキリのようすを問う設問の正答率は41.6%と市の平均正答率を26.3ポイントも下回っている。</p> <p>●水が水蒸気になる現象を問う設問の正答率は54.5%と市の平均正答率を11ポイントも下回っている。</p>	<p>・今後も科学的な思考力や表現力を高めるために、思考する時間を確保するようにしていく。その際、ノートやワークシートに自分の言葉で考えを書くように指導する。</p> <p>・学習課題に対して、予想→観察・実験→結果→考察→新たな課題というサイクルになるように指導していく。</p> <p>・結果を比較したり関連付けたりしながら思考するように指導する。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。</p> <p>○空気は熱せられると上方へ移動することを問う設問の正答率は93.5%と市の平均正答率を7.8ポイント上回っている。</p> <p>●へこんだピンポン玉が元の形にもどる理由を問う設問の正答率は22.1%と市の平均正答率を14.9ポイントも下回っている。</p> <p>●金属の性質を基にあたためるとふたが開く理由を問う設問の正答率は54.5%と市の平均正答率を15.5ポイントも下回っている。</p> <p>●金属は熱した部分から温まることを問う設問の正答率は74.0%と市の平均正答率を14.2ポイントも下回っている。</p>	<p>・できるだけ実物を使うが、それができないときには写真、映像などの視覚資料を活用しながら学習を進めていく。また、実物を使えない分、興味関心を持続できるように、体験的な実験を取り入れる。</p> <p>・学習の途中や終末に、まとめる活動の時間を取ったり、復習の問題に取り組みせたりして、学習内容の定着を図る。</p> <p>・起こった事象についての理由を考える時間を確保し、ペアなどでその理由を伝え合うことを通して、理解を深める。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で宿題のほかにア自分で考えた勉強をしている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が63.6%と、県平均(61.6%)より2ポイント高い。また、「家で、学校の宿題をしている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が97.4%と、県平均(97.4%)と同じだった。引き続き家庭学習のやり方を具体的に指示し、計画表や頑張りカードを作成させるなどをして、児童が家庭学習に取り組めるように指導していきたい。

○「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が92.2%と、県平均(91.4%)より0.8ポイント高い。今後も、授業の際はめあてを必ず示し、児童が授業の見通しを持てるように指導し、学習への意欲向上を図っていきたい。

○「次の教科などの勉強は好きですか。」という問いに対し、「国語」では、3.9ポイント、「算数」が1.6ポイント、県平均より上回っている。算数では、少人数指導や習熟度指導を行い、一人一人に合わせた指導の成果が表れている。今後もこの取り組みを継続していきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が71.4%と、県平均(84.4%)より13ポイント低い。自信を持って問題に取り組めるような学習内容の工夫を図ったり、できたときや努力したときにほめたりすることを通して、自分の力で課題に取り組もうとする意欲を高めさせていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の肯定的回答の児童の割合は、それぞれ69.7%、61.8%で県平均より、13.7ポイント、9.1ポイント低い。時事ニュースなどを伝える機会を増やしたり、学習内容を社会事象に結び付ける工夫を重ねたりしていきたい。

●「学校でのきまりを守っている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が85.7%と、県平均(93.3%)より7.6ポイント低い。また、「家でのきまりや約束を守っている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が87.0%と、県平均(88.5%)より1.5ポイント低い。規範意識が低いことが伺える。「陽南学習・きまり」の振り返りを活用したり、できている児童をほめたりすることを通して、規範意識を向上させていきたい。

宇都宮市立陽南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る	学年の実態や単元の特性に応じて、習熟度別コースや少人数指導などTTの活用を工夫し、指導している。	算数の基礎問題でA層は4、5年とも正答率約90%に対し、C層68%、D層40%となっており、中位層から下位層の正答率が低い。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	「授業でのめあての提示」を各クラス徹底し、見通しを持って学習に取り組む、まとめ・振り返りの時間を十分に設けている。	「ノートに学習の目標とまとめを書いている」の質問に、4年生は83.3%と県の平均を上回り、5年生は85.7%で県の平均とほぼ同じであった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年に応じた「家庭学習のしおり」や「家庭学習カード」を活用し、宿題の内容や量、自主学習への取り組み方について、学年で歩調を合わせて指導し、家庭学習の習慣化を図る。	4、5年生ともに、「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は90%以上である。「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に関して70%に児童が肯定的な回答をしている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、ローマ字、わり算や小数などの計算や図形の性質など、基本的な知識や技能に関わる問題の中で、県平均よりも5ポイント以上低いものがいくつかあった。	復習により定着を図る学習の充実	単元の導入に前学年までの内容を復習する機会を設定したり、既習した後にパワーアップタイムなども利用して復習を何度も行ったりして、基礎的事項を身に付けられるようにする。